

富士山「まなびの森」ご紹介

沢田 明宏

私は2019年4月から静岡県富士宮市の富士山1.5合目(標高1,100m)の住友林業富士山「まなびの森」と言う場所に勤務しております。縁あって昨年、森林文化協会の月刊誌『グリーンパワー』に3回連載*で「まなびの森」でのこれまでの活動のようすを紹介しました。その記事を転載してよいと同協会の許可をいただきましたので、ここで皆さんにも紹介させていただきます。3回連載の形式をそのままにしているため、重複している箇所がありますことをご了承ください。

(上)

国有林の風倒地を自然林に復元へ 落葉広葉樹の自生種中心に植林

富士山「まなびの森」は住友林業の設立50周年記念として始まったプロジェクトです。1996年9月の台風17号により富士山南麓で実に1,000haにも及ぶ広い面積に風倒被害が発生しました。その大きな風倒被害を受けた国有林のうち93haを借り受け、設立50周年にあたる1998年より自然林復元活動をスタートさせました。

当社には、かつて過伐採と煙害によって深刻な荒廃の危機を迎えていた愛媛県別子銅山周辺の森林を再生させた歴史があります。別子銅山の経営と言う国土からの恵みで事業を行いながら、結果として山を荒れ果てたままにしておくことは「天地大道に反する」と言うことで、1894年に始まったその「大造林計画」では、試

行錯誤の中、年間100万本以上、多い年には250万本もの植林を続け、別子山はやがて豊かな緑を取り戻しました。このことは私たちの誇りであり、「国土報恩」の精神に基づく持続可能な経営こそ当社の事業、そしてサステナビリティ活動の原点です。創業は別子銅山開坑の1691年としている住友林業ですが、戦後の財閥解体に伴う設立年である1948年から50周年にあたり、もう一度自然再生の植林を行いたいと考えたのが「まなびの森」の始まりでした。

120年あまり前に別子銅山で実施した「大造林計画」はスギやヒノキなど産業用の用材にするための針葉樹の植林でしたが、もともと広葉樹に覆われていた富士山にはブナやミズナラ、ケヤキ、ヒメシャラ、マメザクラなど地域固有の自生種である落葉広葉樹を中心に植林しました。

「まなびの森」はナチュラルゲメス、即ち「合自然」の思想を携えて始まっています。私たちを取り巻く大自然は、人間にとって未知のことにあふれています。人間が自然を利用し制御したつもりが、時には意に反して計り知れない「負の遺産」を抱えてしまうことがあります。もっと自然に合った、もっと自然に従った、そして自然の仕組みとその恵みについてもっと近づいて学んでみる、そんな人と自然との関わり方が「まなびの森」には託されています。

森林を再生するには百年近くかかると言われています。これまでに社員をはじめ地元富士宮周辺の方を含むボランティア約1万2000人

* 『グリーンパワー』(森林文化協会)2020年11月~2021年1月号

が植樹に参加し、風やシカなどの獣害から守るため、苗木にツリーシェルターの装着。太陽の光をしっかりと浴びて生長できるよう下草刈りをし、十分に生長した後にはツリーシェルターの撤去を行いました。

こうした植樹や育林のボランティア活動と並行して、自然林の復元状況をモニタリングしています。鳥獣生息調査や植生調査、豊かな自然の指標でもある昆虫調査に加え、来訪者の自然への影響度合いを調べるトレイル踏圧調査も実施しています。

一例として、風倒被害の後にできたススキなどの草原であった頃と、植林を終えて少しずつ森林が復元していく過程では、鳥獣の種類が変化していることが分かっています。草原を好むホオジロやキジ、ウグイス、ノウサギが少なく、自然林を好むシジュウカラやヤマガラ、キツキの仲間、キビタキが増えてきています。



風倒被害を受けた森(植樹前)



植樹のようす

(中)

五感を使って森を体験、体感 森の大切さを子どもたちに伝える

一度壊れてしまった森林を再生するには百年近い長い時間がかかるといわれています。

世界文化遺産である富士山の大切な自然を将来にわたり守っていくためにも、この地域の未来を担う子どもたちに森の大切さ、自然の豊かさを知ってもらい受け継いでもらうことが大切です。

森での活動が植樹から育林に活動が移ったことを契機に、2006年から地元富士宮市を中心に小・中学生を対象とした環境学習支援、「まなびの森」自然体験教室を行っています。これは、富士宮に本部があるNPO法人ホールアース研究所に協力していただいて実施しているプロジェクトです。「森づくりには長い時間がかかる。私たちの世代だけではこの森を見届けることはできない。だからこそ、次世代を担う子どもたちに森の大切さを伝えたい。」という思いが込められています。

「まなびの森」は台風による風倒被害の再生に取り組んでいる約30haと被害を免れたヒノキやウラジロモミなどの人工林30ha、そして元々の富士山南麓の天然林30haという樹種や林相が変化に富んだ豊かな森が広がっています。その森を、ホールアースのプロのネイチャーガイドの案内で散策し、五感を使ってさまざまな角度から森を体験、体感してもらっています。木の幹に直接触れてみたり、野生動物の足跡や糞など生息の痕跡を探したり、野鳥の声や木の葉が風でそよぐ音に耳を澄ませたり、天然林と真っすぐに林立する人工林の違いを間近でみたり、色々な木の葉の匂いをかいだり、と視覚だけでなく触覚や聴覚、嗅覚など五感を使った森の中でのプログラムやゲームを通じてより深く森について学ぶ4～5時間です。普段はあまり立ち入ることがない自分たちの「ふるさとの森」に子供たちが直に触れ、楽しみながら自然のすばらしさ、森のすばらしさを体験、体感



住友林業「まなびの森」 ドローン撮影：ネイチャーシネプロ・吉田嗣郎 2019.11.21

しています。その時、森の中で子どもたちの目はワクワク感と好奇心で文字通りキラキラと輝いています。

「まなびの森」にはボランティア活動並びに



自然体験教室

環境学習活動の拠点である施設「フォレストパーク」があります。ここは国有林の一部ということで、電気、水道と言った現代社会のインフラが通じていません。その代わりとして、太陽光・風力発電や雨水を利用し、また、木材チップを使ったバイオトイレが備えられています。短い時間ながらも、環境に配慮したこの施設で体験することを通じて子どもたちは自然の恵みを利用し、自然とうまく調和して暮らすことの大切さについても学んでいます。

森と自然の大切さを学んでもらうことを目的としているこの活動は年間に600人から始まり、最近では毎年約1,000人の子どもたちを招待しており、2019年までに延べ1万人以上が「まなびの森」での貴重な体験をしています。

(下)

「草原から高木へ」回復途上の森 調査のバトンを繋ぎ、一生を追う

風倒被害を受けた国有林を元の自然植生に戻そうと始められた「まなびの森」プロジェクトは今年で22年目を迎えました。約30haに3万本以上のブナやミズナラ、ケヤキ、マメザクラなどの落葉広葉樹を延べ約1万2000人が植

樹した植生回復エリアの樹々も順調に生長しています。

20周年をむかえた節目のを機に、2019年から植生回復途上の森で樹木調査をする活動をはじめました。植樹エリアから3ヶ所を選び、1年に1ヶ所、約1800㎡の一定の面積の樹種、樹高、胸高直径、位置情報を記録して、樹木の生長を見守り、「見える化」するボランティア活動です。3年で一巡し、それを3回繰り返して約10年経った時に、森林再生のために行った植林がうまくいっているか調べ、将来の森林再生プロジェクトに活かしてもらう予定です。

最後の植樹から22年経過して、生長の早い樹種であるホオノキやミズキなどは12～13m、中には15mちかい高さとなっているものもあります。植樹した樹種以外にもさまざまな種類の樹種が育ってきています。アブラチャンやウツギ、ミツバウツギ、ヤブウツギ、サンショウ、ミツマタなどがそうです。また、植樹した木からの実生でホオノキやエゴノキの若い木も育っています。森が育っていく過程で生物の多様性をドンドンと増やしていくことが手に取るように分かります。

植樹エリアで多く見られるのが、さまざまな木本のツル植物、たとえばツルウメモドキやスイカズラ、ボタンヅル、クマヤナギ、サルナシ、ヤマブドウなどです。こういったツル植物は若い木に絡まり、時にはその生長を阻害しますが、これも一つの生存競争です。植樹エリアは約



樹木の生長を「見える化」するボランティア活動



樹高を測る

2.5m 間隔で植えられています。そういった樹々がそのまますべて育つことはできません。ツル植物が自然淘汰をして自然林に近づけてくれている、とも言えます。

森が育つことで、そこで暮らす動物や鳥も少しずつ変わってきていることは連載(上)でご紹介したとおりです。草原性の鳥獣、たとえばオジロヤキジ、ウグイス、ノウサギが多くみられた植樹エリアでも、自然林で多く見られるシジュウカラやヤマガラ、キツツキの仲間、キビタキへと変化してきています。ツル植物は自然林ではその種類が限られてきます。多く見られるのはツルマサキやイワガラミ、サルナシなどです。

草原から高木へと変化する森の一生を見ることができるようにも「まなびの森」ならではの特徴です。植樹から22年経ったとは言え、今はまだ若々しい植樹エリアの樹々が、既存の天然林の森と区別がつけられないほどに育つまでには、まだまだ長い時間が必要です。私たちは見届けることができませんが、地域子どもたちが更に次の世代へとバトンを受け渡し、森を育てていってもらえることが私たちの願いです。